

令和6年度第2回博多湾環境保全計画推進委員会 委員意見概要・対応

①博多湾環境保全計画(第三次)の策定の方向性について

整理番号	委員意見	対応
1	<ul style="list-style-type: none"> 世界では今、生物多様性の観点がクローズアップされていると思うが、第三次計画の方向性にはそれがあまり見られない。 	<ul style="list-style-type: none"> 『はぐくむ』の計画目標像「多様な生きものが生まれ育つ場が保全・再生・回復している」において、ネイチャーポジティブの考え方に基づき施策を展開していくこととしている。
2	<ul style="list-style-type: none"> 生物が食物連鎖「食う・食われる」という毎日を過ごしている中で、この計画目標像の日本語は、本当にそれに裏づけされた表現になっているか。もう一点は、市民が読み、理解していただく、その両方の本当のところと理解のところの頂点をスローガンとして打ち出さないといけない。 計画目標像はかなり人間に都合の良い表現になっているが、人間側が若干の苦しみを覚えても生物のためにはこれだけ守ろうという、その言葉の表現の比率、それから意味するものの比率が、環境保全という目標に対して妥当になっていると良い。 	<ul style="list-style-type: none"> 食物連鎖については、生物多様性なども含め計画の中にコラムを入れるなどし、理解を促す。 計画目標像については、将来像に記載のとおり、各主体が役割を理解・行動するという部分で、自分事として取り組む視点を示しているものと認識している。また、市民のわかりやすさの視点を重視し、原案どおり、基本的方向、計画目標像は平易な表現とする。
3	<ul style="list-style-type: none"> 国の方針に博多湾の環境が合っていれば良いが、合っていない場合は異議申し立てをするのが良いと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> 国においては、地域のニーズや実情に応じた生活環境の保全に関する水質環境基準のあり方、柔軟な運用について検討が進められており、博多湾における水質シミュレーション結果や国の動向を踏まえながら、本委員会で栄養塩類の検討を進めていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> 『ささえる』と『はぐくむ』があるが、海の栄養塩が適正レベルでないと、いくら『はぐくむ』の活動をしてもうまく進まないため、両輪で考えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 『ささえる』と『はぐくむ』は両輪であるとの認識であり、それが分かるよう記載する。

整理 番号	委員意見	対応
5	<ul style="list-style-type: none"> 『ささえる』の主な施策に「下水の高度処理」があるが、「下水の適正な高度処理」という表現に変更できないか。 	<ul style="list-style-type: none"> これまでも環境基準や福岡県流総計画の基準を適正に踏まえ、高度処理を進めている。表現の変更については、環境基準に関する国の告示や事務処理基準の改正状況、県の動向等を注視し、適宜、検討を進めていく。
6	<ul style="list-style-type: none"> 『ふれあう』の主な施策「人工海浜の維持管理」について、おそらくこれは砂浜海岸のことを言っていると思うので、「砂浜海浜の維持管理」ともっと広くして、人工海浜に限定しなくてもいいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 人工海浜を砂浜海浜に変更する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 『つなぐ』の主な施策に「小学生を対象とした環境学習」があるが、机上の学習だけでなく、子供や親も含め、海に導く方法、何か体験をさせながら学習して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係部局と調整・検討したい。
8	<ul style="list-style-type: none"> 海岸清掃で大きなごみは回収できるが、砂浜の中に混ざったマイクロプラスチックは回収できない。 	<ul style="list-style-type: none"> プラスチックごみの発生抑制や適正排出に向けた啓発等に取り組んでいく。
9	<ul style="list-style-type: none"> マイクロプラスチックは、一度散らばってしまうと回収はほぼ不可能。排出源対策が一番ローコストで手っ取り早い。 	

②第三次計画の指標・目標・モニタリング内容（案）について

整理 番号	委員意見	対応
1	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング項目として、海水浴場の海浜幅と来客数を追加して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 来客者数については、集計の精度が低いこと、施策が来客者増に寄与するものではないこと、教育や整備状況、市民の志向等に左右されることから、追加しない。 海浜幅については、予算の兼ね合いもあり今後検討する。
2	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング項目に「博多湾の鳥類の種数」があるが、個体数も追加して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> モニタリング項目への追加を検討する。
3	<ul style="list-style-type: none"> 『ささえる』『はぐくむ』について、目標がほぼ全て現状維持となっており、今の右肩下がりである状況を現状維持とすることは、計画目標と合っているのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現状では目標設定に必要なデータが十分でなく、定量的な目標設定が難しい状況であり、より具体的な目標値が検討できるよう、第三次計画期間に情報の収集・解析・検討を行っていく。
4	<ul style="list-style-type: none"> 第四次計画策定の際には、定性から定量に表現が変えられるよう、博多湾特有の現象をサイエンスベースで理解するプログラム、プロジェクトを第三次計画に入れてはどうか。 	
5	<ul style="list-style-type: none"> 「博多湾海域における魚種数」について、環境 DNA では量が分からないので、これだけに依存すると豊かな博多湾からかけ離れるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 量としては、漁獲量も参考になるものと考えている。あわせて、環境 DNA で判別された魚類の特性（底層に生息、プランクトンを捕食等）を見ていくことで、博多湾の状況なども把握できるものと考えている。
6	<ul style="list-style-type: none"> 浅海域の底生生物調査は貧酸素の影響を受ける特定の時期だけではなく、カレイやクルマエビなどの水産生物を育む底生生物としての視点を持った調査に切り替えないと、単なる貧酸素モニタリングにすぎないのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 現在は貧酸素水塊調査として実施しており、調査回数や地点を増やす場合、予算等の兼ね合いがあるため、今後検討する。
7	<ul style="list-style-type: none"> 博多湾のデータベースがあると、研究者やデータ取得者が見たときに「こっこの項目も測ろうか」という気づきにつながる可能性があるため、博多湾のデータベースを市として作ることを検討してほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 博多湾環境保全計画に係るモニタリング結果については、市ホームページで公表している。 モニタリングは各事業主体により実施されている場合もあることから、各主体の協力のもと、モニタリング結果の把握に努めていく。